

事業の背景・目的

- ・実績報告書(別紙10-3)を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載(300文字以内)
- 桶ヶ谷沼には、ベッコウトンボ(環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA類)等の希少な動植物が生息している。しかし、沼の水量の減少や水質の悪化、外来種(アメリカザリガニ等)の侵入などにより個体数が減少している。予算的な制約等により対応が困難であった事業を実施することでベッコウトンボの生息環境を改善し、沼本体から安定的な繁殖を目指す。

事業の内容

- ・実績報告書(別紙10-3)を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業① 自然環境調査事業
・1975年に磐田市教育委員会が中心となり作成した「磐田市桶ヶ谷沼およびその周辺の生物相ならびに自然環境調査報告書」の内容に基づいた現況調査した

事業② ベッコウトンボ生息環境改善事業
・沼本体からベッコウトンボの繁殖を目指すため、湖面のヨシ等の刈り取りなど環境整備を実施した

事業③ 水量回復事業
・近年減少した沼の水量の増加を図るため、保全地域内の側溝から雨水を沼に取り入れることや水際の樹木の伐採などを行った

事業③ 植生図作成事業
・過去の植生図の比較により、今後の対策を検討するため、トンボが豊富に生息していた時期と現在の森林の変遷を調査した

得られた成果

- ・実績報告書(別紙10-3)を基に、事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載(400文字以内)
- ・ベッコウトンボは4月～5月に羽化するため、令和元年度で実施した事業の結果が得られるのは令和3年度以降となる見込み。今回整備した復元池に多くのベッコウトンボが産卵し、翌年度羽化するよう保全活動等(各事業)を進めていく。
- ・今後も桶ヶ谷沼ビジターセンターを拠点として、県、市、地域住民、地元研究者、NPO法人等が連携してベッコウトンボ等の保全活動を継続して行っていく。
- ・管理運営委員会が中心として保全事業を実施し、事業で育成した若手や調査協力者を管理運営委員会に取り入れることにより、組織の活性化を図っていく。そうすることで、継続して桶ヶ谷沼及びベッコウトンボを保全していきたい。